かたち を見る

ウキゴリ

アイヌ語名は（　）内に

どちらが上？　どちらが右？

ヌマガレイ。体の左側に目が二つ

カレイやヒラメは体の上に目がある、のではなく、両目が体の右か左に集まって、そちらを上向きにして横たわっているのです。

よく「左ヒラメの右カレイ」といい、カレイの目は右に寄（よ）っているのですが、日本産のヌマガレイは左に寄っています。

ちなみにカレイ科とヒラメ科の厳密（げんみつ）な違（ちが）いは、左右の目につながる神経のうち、左目の神経（しんけい）が上にある方がカレイ、下になるのがヒラメだということです。

長細い魚たち

長細い魚もいます。十勝の川にいるものでは、ヤツメウナギの仲間と、ドジョウの仲間がこれにあたります。

また、平成14（2002）年には十勝川でウナギが初めて記録されています。

カワヤツメ（ウクリペ）

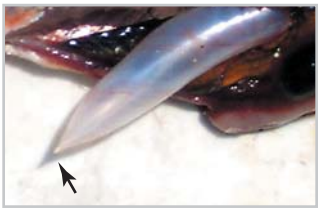
変態直後のカワヤツメ（ウクリペ）

スナヤツメの幼生

フクドジョウ（オンネチェプケウスツ、チチラカイ、レクシチュッポ）

微妙な違い、体の中の違い

ウグイ（スプン、オトゥヤッケ）


ウグイの浮き袋。とがっている

ウグイの仲間は外見からはなかなか区別が付きません。エゾウグイは吻（ふん）（鼻先）がとがっているのがウグイとの違（ちが）いと言われていますが、なかなかわかりません。

体の中で見ると浮き袋（うぶくろ）の形に違いがあります。

ウグイの浮き袋の後端（こうたん）が細くとがっているのに対し、エゾウグイの浮き袋では円いかわずかに飛び出るくらいと、割（わり）と違いがはっきりしています。

また、背ビレ（せ）の前にあるウロコの数が、ウグイは37以下、エゾウグイは38以上です。

その他魚にはいろいろな形があります。10～11ページにシルエットがあります。そちらも見てみてください。

参考文献

「日本産 魚類検索－全種の同定－」 中坊徹次編　東海大学出版会　1993
「山渓カラー名鑑 日本の淡水魚」 川那部浩哉・水野信彦 編・監修　山と渓谷社　1989
「北海道の淡水魚」 稗田一俊　北海道新聞社　1984
「検索入門 川と湖の魚①」 川那部浩哉・水野信彦　保育社　1989
「検索入門 川と湖の魚②」 川那部浩哉・水野信彦　保育社　1990
「図説 魚と貝の大辞典」 望月賢二 監修　魚類文化研究会 編　柏書房　1997